

平成24年度私立学校初任者研修 中部地区静岡・山梨県研修会実施報告

本年度の私立学校初任者研修 中部地区静岡・山梨県研修会が、8月17日（金）から18日（土）の1泊2日の日程で、静岡県裾野市の富士教育研修所で開催された。参加者は、静岡・山梨両県から77名であった。

まず初めに、静岡県私学協会会長であり聖隷学園理事長の長谷川了氏による講演「出会いと感化」では、人は人と出会うことで、人生が開ける。その人生を変えた劇的な出会い。これから教師生活を始める若者への講演として、迫力をもって語られた事例は、受講者の心に響いたことであろう。



また、学校法人駿河台大学常務理事経営戦略担当で駿台甲府中学・高等学校前校長で、現教育顧問である山口博伸氏による講義「教壇に立つ責任」では、教壇に立つということは、大袈裟ではなく本当に一人の人間の一生を左右してしまうかもしれない、という重みを持つ。そのことを初任者たちに自覚させる講演であった。



その後、学校にある演劇性について、学校に演劇性があることを意識するかどうかで、学校の日々の活動が大きく変わってくる。そんな狙いをもった研修が、静岡県舞台芸術センター文芸部スタッフ、大岡淳氏を迎えての「他者と向き合うための教育演劇」であった。受講者は動きやすい服装に着替え、発声方や美しい姿勢や歩き方についての実習を行った。教員にとって、声を出すことは、業務上のスキルとして極めて重要である。受講者たちは「腹から声を出す」ことを実践し、そのことを実感したようだ。



研修2日目には、向上高等学校・自修館中等教育学校前校長である清水秀樹氏による講義「明日に役立つ生徒指導」が行われた。問題行動を起こす生徒への対応は、いつの時代でも教師達を悩まし続ける。そんな教育現場での実践的な事例への対応例を示され、受講者たちは熱心に耳を傾けていた。



午後からは教科ごとに分かれての分科会で、教科指導や生徒指導の日頃の悩みやトラブルについて、熱心に意見交換がされた。

その後、全体会での研修のまとめ、閉会式での修了書の授与で2日間の研修を終了した。